

群 教 セ	G10 - 01
	平 29. 265 集
	道徳

道徳的価値の理解を 自分との関わりで深める児童の育成

—自己を深く見つめるための自分メーターの活用を通して—

特別研修員 亀井 千恵子

I 研究テーマ設定の理由

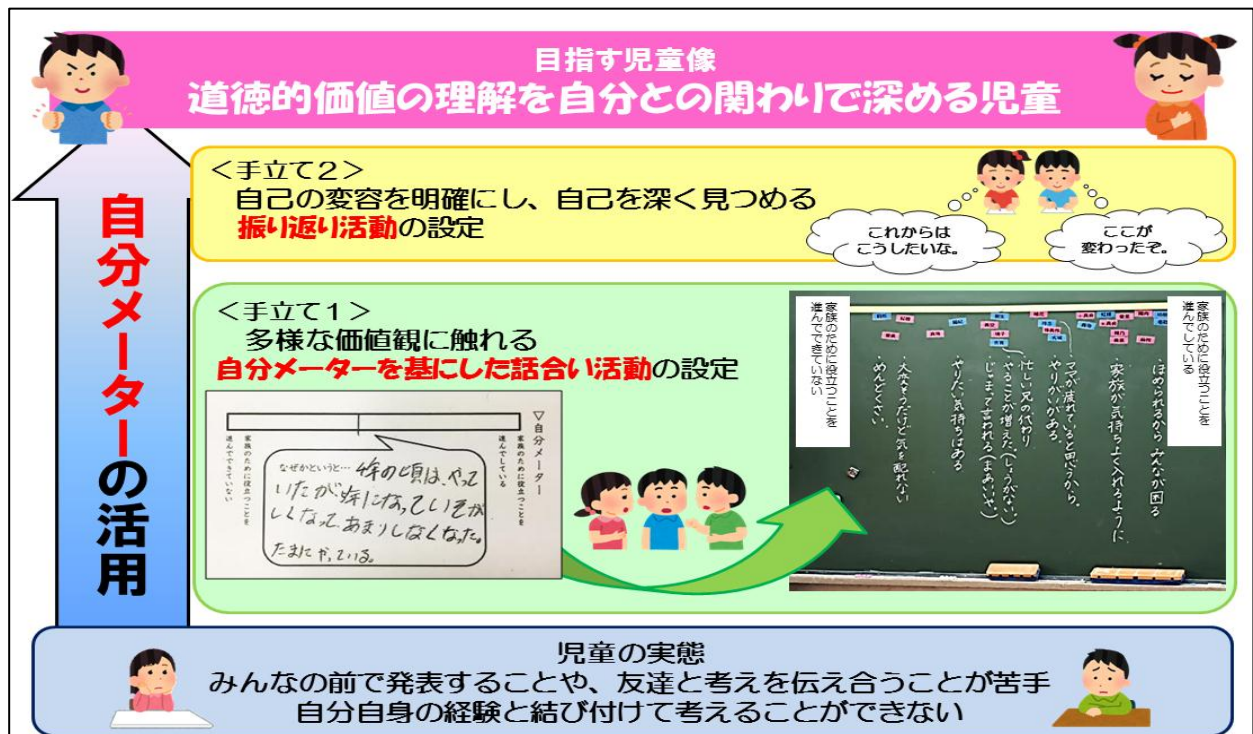
平成 29 年度学校教育の指針には、「他者の多様な考えや感じ方に触れ、自己を深く見つめる学習を工夫し、これからの生き方への思いや願いを深めていけるように」とある。また、平成 30 年度から全面実施される道徳科では、「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、より良い方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要である」と示されている。

道徳科において、道徳的価値の理解を深めていくためには、他者との関わりは必要不可欠である。しかし、児童の実態として、全体の場で自分の考えを発表することや友達と考えを伝え合うことに消極的で、他者との関わりを通して考えを深めることが十分にできているとは言い難い。また、積極的に発言する児童についても、道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めていくことに課題がある。

そこで、展開後段の自己を見つめる場面において、道徳的価値に対する自分の現状を示した自分メーターを基に、全体での話し合い活動を行うことで、多様な価値観に触れる機会を持つこととした。また、自分メーターを基にした話し合い活動を通して生じた自分の考えの変化を視点到に振り返ることで、変容がより明確になり、自己を深く見つめることも期待できる。これらの活動を通して、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めることができると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めるためには、まず道徳的価値に対する自分の現状を客観的に見つけ、次に友達の考えを聞いたり話し合ったりして多様な価値観に触れ、さらに再度自分自身の価値観や振る舞いを見つめ直すことが必要であると考えた。そのために、自分メーターの活用について、以下の二つの手立てを考えた。

手立て1

多様な価値観に触れる自分メーターを基にした話し合い活動の設定

手立て2

自己の変容を明確にし、自己を深く見つめる振り返り活動の設定

手立て1について、道徳的価値に対する自分の現状を客観的に見つけ、多様な価値観に触れるためには、道徳的価値と自分の経験とを結び付け、それを全体で共有することが必要である。自己表現が苦手な児童でも意欲的に取り組めるよう、ねらいとする道徳的価値に対する自分の現状をネームカードで位置付ける自分メーターを活用する。自分メーターとは、ねらいとする価値に対する自分の現状を視覚的に分かりやすく表したものである。まず、ワークシートの自分メーターに現状を示し、その理由を記述する。その後、黒板の自分メーターにネームカードを貼り、自分の現状を示す。現状を視覚化し全体で共有することで、その根拠を「聞きたい」「伝えたい」という気持ちが生まれる。そして、その位置に定めた理由や他者との相違点、共通点などを話し合うことで、より多様な価値観に触れることができると考えた。

手立て2について、自己をより深く見つめるためには、自分自身の価値観や振る舞いを見つめ直すことが大切である。そのために、導入で想起させた「今までの自分」、ねらいとする道徳的価値と自分自身の現状とを自分メーターを用いて照らし合わせた「今の自分」、自分メーターを基にした話し合い活動で多様な価値観に触れることを通して、今後の行動について考えた「これからの自分」という三つの視点を基にした振り返り活動を行う。その結果、授業を通しての自己の変容がより明確になり、自己を深く見つめることができると考えた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 自分メーターを用いてねらいとする道徳的価値に対する自分の現状を表し、その位置に定めた理由を考えさせることで、道徳的価値を自分との関わりで捉えることができた。
- 黒板の自分メーターを用いて現状を視覚化し、全体で共有したことにより、「自分との違いは何だろう」という疑問や「友達の考えを聞きたい」という思いが児童の中に生まれ、主体的に話し合い活動に参加することができた。また、話し合い活動では意図的指名を取り入れることで、より多様な考えや価値観に触れることができた。
- 「今までの自分」「今の自分」「これからの自分」の三つの視点を基にした振り返り活動を行うことで、他者と自分とを照らし合わせて考えを深めたことや、話し合い活動を通して道徳的価値の理解を深めたことなど、自己の変容を具体的に記述することができ、今後の行動意欲につなげることができた。

2 課題

- 自分メーターを基にした話し合い活動では、単なる行動面の評価にならないよう、心情面をよりうまく引き出せるような発問や児童の発言のつなぎ方の工夫が必要である。
- 児童が「自分の考えが深まった」と自覚したり、共有したりする場面を、振り返りの活動に適切に設定する必要がある。

実践例

- 1 主題名 父母の愛 内容項目 C-(15) 家族愛、家庭生活の充実
資料名 「たまご焼き」 (出典 文溪堂「みんなの道徳5年」)

2 主題及び本時について

(1) 価値観

本主題は学習指導要領において、主として集団や社会との関わりに関することの項目に位置付けられ、「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること」を具体的な内容としている。家族愛とは、家族の一人一人が互いを思いやる優しさ、無償の愛を持ち、さらに家族の一員としての自覚を持つことによって育つものであると考える。

家族の中でも特に関わりの深い父母、あるいは保護者を敬愛し、家庭における自己の在り方を踏まえて、家族のために役立とうとする心を育てたい。

(2) 児童観

本学級の児童は明るく素直であり、学校生活の中においてよく家族の話をする。授業参観や運動会といった学校行事には両親のみならず祖父母や親戚等も来校し、児童は照れくさそうにしながらもそれを楽しみにしており、家族への愛情が深い児童が多いと感じる。一方で、保護者に世話になっていることは当たり前だと思っている児童も多い。また、自分のためを思っつけや注意をする保護者に対し、素直に聞けなかったり反発したりする様子が見られる児童もいる。自分に向けられている家族からの愛情の尊さや有り難さに気付かせ、家族の一員として役立とうとする意欲につなげていきたい。

(3) 資料観

本資料は以下の三つの場面で構成されている。

- ・由紀は、遠足の前日に卵がないと知りながら、「卵焼き入れてや」と駄々をこね、父に叱られて泣きながら眠る。
- ・弁当の中に卵焼きを見付け、みんなと離れて一人で卵焼きを食べながら涙を流す。
- ・家に帰り、母から父が卵を手に入れてくれたことを聞き、風呂たきを始める。

これら三つの場面を通して由紀の気持ちの変化を共感的に捉えさせ、「家族への感謝の気持ちを持つこと」と「家族の一員として役に立つこと」を自覚し、行動することの大切さを押さえたい。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、資料を通して理解させたい道徳的価値の確認を行った後、展開後段においてその道徳的価値に対する自分の現状を客観的に見つめるために自分メーターを用いて立場を明らかにさせ、その位置に定めた理由を記述させた。その後、多様な意見に触れ、他者理解・自己理解を深めるために自分メーターを基にした全体での話し合い活動を設定した。さらに、自己の変容を明確にするために「今までの自分」「今の自分」「これからの自分」の三つの視点を基にした振り返り活動を設定した。

手立て1 多様な価値観に触れる自分メーターを基にした話し合い活動の設定

展開後段の道徳的価値を自分との関わりで考える場面において、ワークシートの自分メーターを用い、道徳的価値に対する自分の現状を表し、その位置に定めた理由も記述する。全体での話し合い活動では、全員がネームカードを用いて黒板の自分メーターに位置のみを示し、その位置に定めた理由やその時の心情について話し合いながら、他者理解・自己理解を深めていく。

手立て2 自己の変容を明確にし、自己を深く見つめる振り返り活動の設定

終末の本時を振り返る場面において、まず導入で使用したアンケートに戻り、これまでの自分が家族に対してどのような思いを持っていたかを再度想起する。次に、自分メーターで位置付けた道徳的価値に対する自分の現状を確認する。そして、話し合い活動で多様な価値観に触れることを通して、今後の行動について考える。これらを「今までの自分」「今の自分」「これからの自分」の三つの視点とし、本時を振り返ることで、自己の変容をより明確にしていく。

4 授業の実際

導入では、事前のアンケート「家族がいて良かったと思うとき」「ちょっと嫌だなと思うとき」を抜粋して紹介することで自分の家族に対する思いを想起させ、ねらいとする価値への方向付けを行った(図1)。展開前段では資料を使って主人公の気持ちの変化や行動を考えながら、「家族からの愛情に対して感謝の気持ちを持つこと」と「家族の一員として進んで役立つことをすること」が大切であることを押さえた。

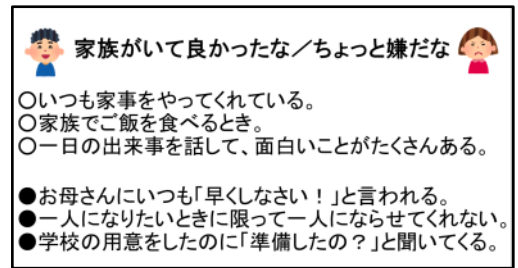


図1 事前のアンケートより

手立て1 多様な価値観に触れる自分メーターを基にした話し合い活動の設定

展開後段において、「家族のために役立つことを進んでいますか。」の発問に対して、図2のようにワークシートの自分メーターに自分の現状とその位置に定めた理由を書き込ませた。書き終わった児童から黒板の自分メーターにネームカードを貼り付け、それぞれの立場のみを共有した(図3)。立場を示すだけでよいので、普段は自分の考えを発表することが苦手な児童も含めて全員が黒板の自分メーターにネームカードを貼ることができた。

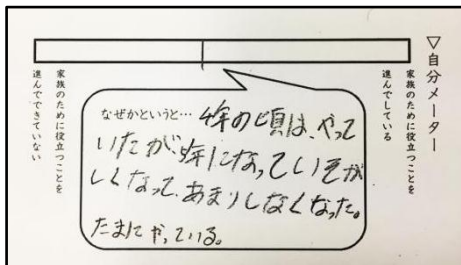


図2 ワークシートの自分メーター



図3 黒板の自分メーター

次に、黒板の自分メーターを使って全体での話し合い活動を行った。その位置に定めた理由やどのような気持ちで家族のために役立つことをしている(していない)のかを発表させ、図4ように主に行動の根拠となる心情を板書していった。話し合い活動では自分の考えと友達の考えとを比較して、類似点や相違点を探しながら聞くよう指示した。

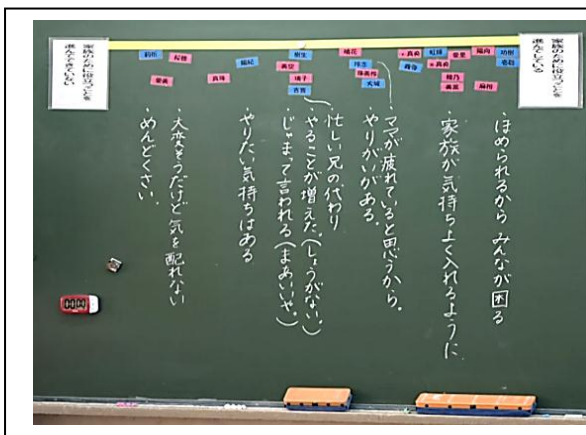


図4 自分メーターを活用した全体での話し合い活動及び分類化した児童の発言

【できている】

- S: やりがいがあるから。
- S: 仕事で疲れているから自分がやってあげなきゃと思う。

【できるときとできないときがある】

- S: やることが多くできないからしょうがない。
- S: やりたい気持ちはあるけど、なかなかできない。

【できていない】

- S: めんどくさいから。

話し合い活動は、発表した児童に考えを聞いてみたい児童を選ばせたり、位置付けは異なるが理由は似ている児童、位置付けは同じだが理由が異なる児童を意図的に指名したりして、より多様な価値観に触れられるようにしながら進めた。また、出てきた心情に対してより詳しく聞いたり、問い返したりしてみんな考えながら、児童の考えを深めていった。

手立て2 自己の変容を明確にし、自己を深く見つめる振り返り活動の設定

終末では、「今までの自分」「今の自分」「これからの自分」の三つの視点を基に本時を振り返った。まず導入のアンケートに戻り、「今までの自分」を再度想起した。次に、ワークシートや黒板の自分メーターに位置付けた「今の自分」を確認した。そして、話し合い活動を通して多様な考えに触れ、今後の行動について考えた「これからの自分」をワークシートに記入させた。その際、導入で使用したモニターを黒板の自分メーターの隣に移動させ、三つの視点を比較できるようにした。自分に対する家族の愛情に改めて気付くことができた児童、これまでの家庭内での自分の姿を見直し、これからの行動につなげていきたいという思いを持つことができた児童、友達の価値観に触れて自分の価値観を見つめ直すことができた児童が多かった(図5)。

<親の愛情に改めて気付いた児童の記述>

S：お母さんやお父さんも僕のために仕事を頑張っているから、面倒くさいと思っていたけど、これからは家の仕事を頑張ってやるようにしたい。

<友達の姿と自分の姿を照らし合わせ、考えを深めた児童の記述>

S：できないときやできるときの気持ちが分かった。私は、これからも家族の一員としていろんなことに協力したり、手伝ったりしていこうと思う。

<話し合い活動を通して道徳的価値の理解を深め、今後の意欲につなげた児童>

S：友達の意見を聞いて、何かをやろうとすると「手伝って」と言うのは、「家族なんだから一緒に頑張ろうよ」という意味だと思った。これからはできることを増やして、家族の一員として頑張りたい。



図5 振り返り活動の様子と児童のワークシートへの記述

5 考察

手立て1では、全ての児童がワークシートの自分メーターに自分の現状を位置付け、その理由を記述することができた。事前アンケートにおいて、家族を愛し、家族のために進んで役立つことを「十分している」と「している」と答えた児童の大半が、自分メーターでは「できていない」寄りに置いており、自分の行動を客観的に振り返ることができていると感じた。また、位置のみを示した自分メーターを全体で共有したことで、児童は「なぜその位置にしたのか理由を知りたい」「自分と異なる位置にいる児童はどんなことを考えているのだろう」という思いを持って話し合い活動に主体的に参加し、積極的に自分の意見を発表したり、友達の発表を意欲的に聞いたりすることができた。

手立て2では、「今までの自分」「今の自分」「これからの自分」の三つの視点を基にして振り返らせ、ワークシートに記述させた。友達の意見を参考にした記述、これまでの自分を見つめ直し反省した記述、今後の行動意欲につながる記述が多く見られ、自己の変容をより詳しく記述できていた。振り返りを全体で共有する場面を設けると、児童自身が「自分の考えが深まった」とより自覚できたのではないかと考える。

今回の研究では、自分メーターの活用を手立てとし、道徳的価値を自分との関わりで考える展開後段と自己を深く見つめる終末に重きを置き、授業改善を図った。自分メーターを活用することで、道徳的価値に対する自分の現状を客観的に振り返りながら、道徳的価値と自分の経験とを結び付けたり、話し合い活動への参加意識を高めて多様な価値観に触れたりすることができ、自己をより深く見つめることにつながった。今後は自分メーターを基にした話し合い活動の中で、児童の多様な考え方や価値観をより引き出せるような発問の工夫や、児童同士で発言をつなぎ、話し合いを進めていけるような支援の仕方を探りながら、引き続き実践に取り組んでいきたい。